

いま、あらためて「貸出サービス」の意義を考える
～「ベストセラー貸出」批判と図書館の基本的な役割～

2016.11.7 田井郁久雄

1. 作家・出版者からのベストセラー貸出批判の経緯 — 出版界と図書館の論争
 - (1) ベストセラー貸出・複本購入批判 — 2000年頃～⁽¹⁾
 - (2) 樋口毅宏著『雑司ヶ谷R.I.P.』論争 2011年 — 半年間の貸出猶予を巡って⁽²⁾
 - (3) 出版者・作家による貸出猶予の要求 2015年～2016年⁽³⁾
 - (4) 出版と図書館の発展—核心の問題は何か
 - ・出版界は図書館の貸出の減少などは求めている。図書館の衰退を危惧している
 - ・核心は本を読む人、本に親しむ人を増やすこと
 - ・本と読書、そして図書館 — どんな社会においても大きな意義と役割が
2. ベストセラー貸出・複本購入批判と同時期に進行した動き — 2000年頃～
 - (1) 『2005年の図書館像～地域電子図書館の実現に向けて～』文部科学省 2000
 - (2) 課題解決型図書館の提案(2000年頃～)、「これからの図書館像」文部科学省 2006
 - ・ビジネス支援、子育て支援など
 - 菅谷明子『未来をつくる図書館：ニューヨークからの報告』（岩波新書）2003
 - 2000.12 ビジネス支援図書館推進協議会発足
 - (3) 民営化の進行 — 企業への窓口委託(2002年頃～)、指定管理者制度(2004年～)
 - ・企業の参入により、図書館が営利事業の対象に
 - (4) 「場としての図書館」、つどい、交流、イベント重視などへ(比較的最近の動き)
3. 2000年以降の動向と図書館への影響
 - (1) 新しい動きや従来の図書館のあり方への批判に対して、図書館では
 - ・賛同と反論、疑問と迷い、現場の実態は？
 - ・議論はつくされているか
 - (参考：「<誌上討論>現代社会において公立図書館の果たす役割は何か」『図書館界』2004.9～2007.11)⁽¹⁾

(2) 新たな図書館のあり方論の底流 — 「無料貸本屋」 批判

- ・ベストセラー貸出批判について、答えは出ているが、図書館現場では迷いが
- ・「課題解決型図書館」など、時流の主張が、一方で貸出批判へ向かっている
- ・「無料貸本屋」という、あいまいで漠然としたイメージによる批判
- ・サービスの焦点が失われている
- ・目新しさ、流行、それを取り上げるマスコミの報道に流されている状況

(3) 図書館の貸出数の減少

- ・40年以上伸び続けた貸出が減少に転じたことの意味

4. あらためて、「貸出サービス」の意義を考える

(1) 「貸出サービス」の原点

- ・『中小都市における公共図書館の運営』（略称：中小レポート）1963、日野市立図書館（1965-）、『市民の図書館』（1970）

(2) 「貸出」とは何か

- ・「貸出」は単に「本を貸す」ことではない
- ・単純作業ではない。図書館のすべての業務につながるサービス
- ・「貸出」と「資料案内（読書案内）」、予約サービス
- ・資料との出会い・発見
- ・選書・資料構築へのつながり
- ・貸出の実績は目的ではなくて結果 — サービスの内容を結果で示す
- ・「カウンターは図書館員のひのき舞台」

(3) 「貸出サービス」を矮小化してはならない

- ・カウンター業務の単純化の状況 — 非正規化、民営化
- ・機械化の進行 — 自動貸出機、自動返却機、予約本受取機
- ・「貸出サービス」の矮小化が図書館サービスを弱体化させる

(4) 市民は図書館に何を求めているか

- ・図書館のアンケート調査と市民の投書から — 市民が図書館にまず求めているもの
- ・すべての市民一人一人の、あらゆる資料要求一つ一つに応える — 貸出の意義
- ・個々の資料には、個々の市民にとって個別の意義が — 徹底した資料提供を

注（参考資料）：いずれも田井郁久雄による論文

(1) 資料提供サービス『図書館・図書館学の発展』日本図書館研究会 2010（文献レビュー）

(2) 「貸出猶予のお願い」と図書館の自己規制、および根本彰氏の主張への反論 — 作家、図書館、利用者の、だれのためにもならない『みんなの図書館』2011年9月号

(3) 図書館の発展は出版文化も発展させる『出版ニュース』2016年2月中旬号